View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk
brought to you by CORE

原著

医療系専門学校生の進学動機と職業的同一性
－理学療法士，作業療法士養成課程の学生を対象に－

中野　良哉[1)]，大倉　三洋[1)]，酒井　寿美[1)]，栗山　裕司[1)]，稲岡　忠勝[1)]，宮﨑　登美子[1)]，柏　智之[1)]

The relationship between motivation to enter medical school and vocational identity of medical students － Research of physical therapist and occupational therapist student －

Yoshiya Nakano[1)], Mitsuhiro Ohkura[1)], Sumi Sakai[1)], Hiroshi Kuriyama[1)], Tadakatsu Inaoka[1)], Tomiko Miyazaki[1)], Tomoyuki Kashiwa[1)]

要　旨

医療系専門学校生117名を対象に進学志望動機と職業的同一性の関係について検討を行った．重回帰分析の結果，進学志望動機の「他律的動機」「無目的・漠然」が高いほど，「対他的同一性」が低いことが示された．また，進学志望動機の「適性考慮」が高いほど，「対他的同一性」を除く，職業的同一性の全ての下位尺度得点が高いことが示された．さらに，進学志望動機の「自己の可能性追求」が高いほど，職業的同一性の「被信頼感」を除く，下位尺度得点が高いことが示された．医療系専門学校生のキャリア発達を促す上で，学生ごとの進学動機の特徴をふまえ，職業的同一性に対する教育を行っていく必要性が示唆された．
キーワード：医療系専門学校生，進学動機，職業的同一性

Abstract

The purpose of this study was to clarify the relationship between motivation to enter medical school and vocational identity of medical students. Participants were 117 medical school students. As a result of multiple regression analysis, motivation to enter medical school such as “Aimlessness or Vague Idea of Career,” “Heteronomous Motivation” lowered “Interpersonal Identity”. “Consider Aptitude for Specific Profession” improves vocational identities with the exception of “Interpersonal identity”. Also “Possibility Seeking” improves vocational identities, with the exception of “Social Identity”. The results showed that it is important to consider the standard of motivation to enter medical school, in the study of medical student’s career development.
Key words: Medical student, Motivation to enter medical school, Vocational identity

【はじめに】

医療系専門職を目指す学生は，国家資格を取得するために専門の教育機関に進学する必要があり，学生が選択した専攻内容は，そのまま将来の特定の職業に結び付くこととなる．白鳥[1)]が指摘するように，一般の大学生は，職業を選択するまでに，自己の能

1）高知リハビリテーション学院　理学療法学科
Department of Physical Therapy, Kochi Rehabilitation Institute

力に対する試行や興味関心の追求を行い，その過程で妥協調整が図られ，就職活動を通して職業人としての規範や行動様式を内在化していくが，それに対して医療系専門職を目指す学生は，入学と同時に専門職へと自我を同一化させていくことが求められる．これらのことから，医療系専門職を目指す学生の職業的同一性の形成にとって，進学を決定する段階での進学志望動機や価値観が重要な役割を果たすと考えられる．本多ら[2]は，進路を決定する過程で明確な職業イメージをもち，主体的に進路決定をしている者ほど職業的同一性の評価が高く，進路決定の過程で，本命進路を諦めたことが，医療職選択への自信を低めることを明らかにした．

職業的同一性とは，松下[3]によれば，社会的現実や自分の能力・適性をふまえた上で，自分に向いた生きがいある職業を選びつつあるという感覚であり，自我同一性の概念を提示したエリクソンが，自我同一性の中心的な要素が職業決定であると指摘したことに端を発する概念である．特定の専門職のアイデンティティについて検討を行った研究には，例えば，保育者養成校の学生を対象とした西山[4]や，看護職養成校の学生を対象とした波多野，小野寺[5]の研究がある．波多野，小野寺は，看護職へのアイデンティティとして,「職業人としての自己向上」「職業人としての自尊感情」「職業的自己関与」「職業への肯定的イメージ」「職業的規律」「職業集団との一体感」の６つのカテゴリーに基づく尺度を開発している．また，藤井，本多ら[6]は医療系大学生の職業的アイデンティティとして,「医療職観の確立」,「医療現場で必要とされることへの自負」,「医療職の選択と成長への自信」,「社会への貢献志向」の４因子を抽出しており，それぞれ，自我同一性概念の斉一性の個人的側面,社会的側面と連続性の個人的側面,社会的側面に対応させ，概念的検討を行っている．

職業的同一性の形成にとって，重要な役割を果たすと考えられる進学志望動機は主に大学進学を目指す高校生を対象とした研究がほとんどであり，例えば，高校生を対象とした渕上[7]は大学への進学動機として「大学の本来的機能」「家族への配慮と規範機能」「モラトリアム機能」「大学の副次的機能」「大学の経済的価値機能」の５因子を抽出した．同様に，八木ら[8]や栗山ら[9]も,「社会的地位」「得意分野」「無目的・漠然」「エンジョイ」「専門・資格」の５因子を，磯部[10]は「社会的地位志向」,「自己興味志向」,「資格志向」の３因子を見出している．また，これらの進学動機は，学科の持つ特徴によって異なると考えられ，大学１・２年生を対象とした古市[11]は「無目的・同調」「享楽志向」「勉学志向」「資格・就職」の４因子を抽出し，教育・医歯薬系の学部の方が，文学・法経・理工農系よりも「就職・資格」志向が強いことを示した．音楽大学の志望動機を検討した佐藤[12]は,「将来展望」「能力活用」「同一視」「他者のすすめ」「消極的動機」の５つの因子を見出し，志望動機の構造そのものが一般の大学の進学動機とは異なることを示した．これらのことをふまえると，職業的同一性と進学動機の関連を検討する上で，それぞれの専門職を養成する学校の種別に特徴的な志望動機の構造を捉える必要があると考えられる．

医療系養成校の中でも特に専門学校の養成課程に在籍する学生は，入学後に様々な可能性を試す時間や職業決定の猶予や選択の幅が与えられている一般の大学生とは異なり，高校生の時点で特定の職業を念頭に置き，養成校の受験，入学の決定が職業の決定となる．しかしながら，入学後，学校生活を送るなかで，専門的な勉強内容についていくことができるか，臨床実習を修了できるかといった現実的な問題に直面し,「自分がこの職業に向いているのか」「この進路を選んでよかったのか」といった自らへの問いかけにより，自己像の捉え直しを迫られたり，特定の職業集団への同一化に困難を感じ，職業的な同一性に揺らぎが生じることが考えられる．長尾[13]は，希望職が明確である者ほど，四大進学・短大よりも専門学校進学を希望しやすく,「能力を具体的な職業技術を身につけることで発現しようとする考え方」がその根底にあると指摘しているが,むしろ,高校の時点で希望職が明確であるがゆえに，現実と理想との間のずれが顕著になり，職業的な同一性に

揺らぎが生じやすいことも予想される．実際に，専門学校に入学しても，進路再考のために休学・退学する学生が見受けられ，そうした学生の支援に向けて職業的な同一性形成過程に関する知見を蓄積することが重要である．また，寺島[14]が指摘するように，暫定的に職業選択をして入学してきた学生に対して，職業的同一性の確立を迫るのではなく，個々の学生がどのような過程にあるのかを理解したうえで，専門教育を通して学生が自己理解を深めるための教育支援を行うことが必要である．

そこで本研究では，理学療法士，作業療法士養成課程に在籍する学生を対象に医療系専門学校生に特徴的な進学志望動機と職業的同一性の構造を明らかにし，それらがどのような関係にあるのかを検討することを目的とする．

【方法】

１．被調査者：被調査者はＡ県内の４年制私立専門学校に通い，理学療法学科，作業療法学科に所属する３年生，理学療法学科57名（男性25名・女性32名），作業療法学科60名（男性31名・女性29名），計117名（男性56名・女性61名）であった．

２．調査期間：平成19年10月及び平成20年10月．

３．調査内容

１）進学動機尺度：学生の進学志望動機を測定するため，渕上[7]，八木ら[8]や栗山・上市ら[9]磯部[10]が作成した大学進学動機の尺度を参考に，医療系専門学校生向けに作成した33項目からなる．

２）学生用職業的同一性尺度：波多野，小野寺[5]，藤井ら[6]の尺度を参考に，医療系専門学校生の職業的アイデンティティを念頭に作成した計33項目からなるものであり５段階で回答を求めた．

４．倫理的配慮

調査が学校の成績には関係しないこと，質問紙への記入は自由意志に基づくこと，調査内容は統計的に処理し，個人のプライバシーは守られることを告げ，同意を得た上で実施した．

５．分析方法

進学動機と職業的同一性尺度の分析には因子分析（プロマックス回転）を用い，下位尺度ごとに合計したものを尺度得点とした．それぞれの尺度の信頼性係数の推定値算出には，クロンバックのα係数を用いた．理学療法学科学生と作業療法学科学生の進学動機と職業的同一性の下位尺度ごとの比較にはｔ検定を用いた．進学動機と職業的同一性との関連については，説明変数を進学志望動機，目的変数を職業的同一性として重回帰分析を行った．なお，本研究の統計学的有意水準は全て５％未満とした．

【結果】

１．進学志望動機の構造

１）因子分析結果

固有値１以上で，５因子が抽出された．第１因子は「他律的動機」，第２因子は「自己の可能性追求」，第３因子は「無目的・漠然」，第４因子は「適性考慮」，第５因子は「専門的価値の追求」因子と命名した（表１）．

２）信頼性の検討

各因子ごとに内的整合性について検討を行った結果，信頼性係数αは，第１因子.86，第２因子.86，第３因子．81，第４因子．85，第５因子．80となり，内的一貫性が確認された．

２．職業的同一性の構造

１）因子分析結果

固有値１以上で，４因子が抽出された．第１因子は「医療職としての社会的同一性」，第２因子は「医療職としての自己成長感」，第３因子は「医療職像の明確さ」，第４因子は「医療職集団の中での対他的同一性」因子と命名した（表２）．

２）信頼性の検討

各因子ごとに内的整合性について検討を行った結果，信頼性係数αは，第１因子．87，第２因子．85，第３因子．83，第４因子．85となり，内的一貫性が確認された．

３．理学療法専攻と作業療法専攻学生の進学志望動機の比較

次に，進学志望動機のそれぞれの下位尺度について，専攻の違いによる差がみられるのかどうかにつ

表１　進学志望動機18項目の因子分析結果（重み付け最小２乗法，プロマックス回転）

項　目　内　容	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
Ⅰ．他律的動機（α=.86）					
14．親のすすめがあったから．	0.87			0.11	
13．親が行けと言うから．	0.85	0.14		-0.11	
12．親が望む進路だから．	0.83				
15．特に自分の意志ではないから．	0.59				
Ⅱ．自己の可能性追求（α=.86）					
9．自分の本当の生きかたを見つけたいから．		0.88			-0.14
10．人生の視野を広げたいから．		0.88		-0.12	
8．自分の可能性をみつけたいから．		0.71		0.15	
11．幅広い教養を身につけたいから．		0.64			0.19
Ⅲ．無目的・漠然（α=.81）					
3．他にやりたいことがないから．			0.91		0.11
4．現段階では他に何をしてよいか思いつかないから．		-0.16	0.80		
2．ただなんとなく，目に付いたから．	0.14	0.12	0.61		
1．ただ，なんとなく自分にはやれそうだと思ったから．			0.60		
Ⅳ．適性考慮（α=.85）					
6．自分の性格や能力が療法士に向いていると考えたから．				0.91	
5．自分の特性・能力を生かすことができると思ったから．				0.86	
7．療法士に関連する分野の学習に向いていると思ったから．				0.68	
Ⅴ．専門的価値の追求（α=.80）					
17．専門職につきたいから．					0.85
18．国家資格，学位，免許状などを取得したいから．					0.73
16．専門的な知識や技術を身につけたかったから．			-0.17		0.66
累積寄与率（%）	24.65	40.57	50.16	57.03	62.80

表２　職業的同一性の因子分析結果（重み付け最小２乗法，プロマックス回転）

項　目　内　容	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ
Ⅰ．医療職としての社会的同一性（α=.87）				
11．私は「療法士」の仲間から信頼されるようになれる．	0.93			
12．私は「療法士」として患者を支えることができると思う．	0.84	-0.11	0.14	0.12
9．私は「療法士」として患者や家族から信頼されるようになれる．	0.83			
10．私は「療法士」として医師から信頼されるようになれる．	0.82		-0.13	
13．私は「療法士」として周囲の求めに応じていけると思う．	0.60		0.18	-0.20
Ⅱ．医療職としての自己成長感（α=.85）				
6．自分のつきたい職業に向かって，着実に準備を進めている．		0.87		
8．私は今，「療法士」になるという目標を成し遂げるため努力している．		0.82		
5．私は常に「療法士」になるため技術の向上に努めている．		0.81		0.14
7．私は自分が将来の職業を目指して着実に歩んでいると思う．		0.79		-0.12
Ⅲ．専門職像の明確さ（α=.83）				
2．自分が目指している「療法士」像ははっきりしている．			0.91	
1．自分がどんな「療法士」になりたいかはっきりしている．			0.88	
3．私は「療法士」のセラピーのあり方について，自分なりの考えをもっている．		0.12	0.72	
4．「療法士」になるために自分のするべきことははっきりしている．			0.68	-0.17
Ⅳ．医療職集団の中での対他的同一性（α=.85）				
14．「療法士」として評価される自分は本当の自分ではないような気がする				0.89
15．「療法士」として人に見られている自分と本当の自分は違うと感じる．				0.88
16．自分のまわりの「療法士」やそれをめざす人々は，本当の私をわかっていないと思う．				0.86
累積寄与率（%）	37.22	51.24	61.72	70.26

いて検討を行った．その結果,「自己の可能性追求」については，理学療法専攻群の平均値3.28(SD=0.92)，作業療法専攻群の平均値3.61(SD=0.86)との間に５％水準で有意差が認められ，理学療法専攻群の方が作業療法専攻群よりも得点が低いことが示された.「無目的・漠然」については，理学療法専攻群の平均値2.38(SD=0.90)，作業療法専攻群の平均値2.96(SD=0.87)との間に１％水準で有意差が認められ，理学療法専攻群の方が作業療法専攻群よりも得点が低いことが示された（表３）.

表３　進学志望動機得点の学科別比較

下位尺度名/学科	理学		作業		
	M	*SD*	*M*	*SD*	
他律的動機	2.12	(0.93)	2.41	(1.12)	n.s
自己の可能性追求	3.28	(0.92)	3.61	(0.86)	＊
無目的・漠然	2.38	(0.90)	2.96	(0.87)	＊＊
適性考慮	3.17	(0.73)	3.32	(0.78)	n.s
専門的価値の追求	3.57	(0.88)	3.79	(0.77)	n.s

＊ p ＜0.05，＊＊ p ＜0.01

４．理学療法専攻と作業療法専攻学生の職業的同一性の比較

職業同一性のそれぞれの下位尺度について，専攻の違いによる差がみられるのかどうかについて検討を行った.「医療職としての自己成長感」についてのみ，理学療法専攻群の平均値3.06(SD=0.69)，作業療法専攻群の平均値3.35(SD=0.67)との間に５％水準で有意差が認められ，理学療法専攻群の方が作業療法専攻群よりも得点が低いことが示された（表４）.

表４　職業的同一性得点の学科別比較

下位尺度名/学科	理学		作業		
	M	*SD*	*M*	*SD*	
医療職としての社会的同一性	3.23	(0.53)	3.31	(0.51)	n.s
医療職としての自己成長感	3.06	(0.69)	3.35	(0.67)	＊
医療職像の明確さ	3.34	(0.72)	3.18	(0.82)	n.s
医療職集団の中での対他的同一性	2.58	(0.78)	2.76	(0.89)	n.s

＊ p ＜0.05，＊＊ p ＜0.01

５．重回帰分析

重回帰分析の結果は，表５に示した通りである．進学志望動機の「他律的動機」「無目的・漠然」は，「医療職集団の中での対他的同一性」に対してそれぞれ有意な正の影響が認められた．また，進学志望動機の「適性考慮」は，「対他的同一性」を除く，職業的同一性の全ての変数に対して有意な正の影響が認められた．さらに，進学志望動機の「自己の可能性追求」は，職業的同一性の「専門職像の明確さ」「医療職としての自己成長感」に対して有意な正の影響が認められ，「対他的同一性」に対して有意な負の影響が認められた．

【考察】

本研究では，医療系専門学校生を対象に進学志望動機と職業的同一性の構造と特徴およびそれらの関係について検討を行った．

１．医療系専門学校生における進学志望動機

まず，進学志望動機を問う項目をもとに因子分析

表５　進学志望動機と職業的同一性の関連（重回帰分析結果）

説明変数＼目的変数	医療職としての社会的同一性	医療職としての自己成長感	医療職像の明確さ	医療職集団の中での対他的同一性
他律的動機	0.00	-0.09	0.02	0.31***
自己の可能性追求	0.12	0.24*	0.26**	-0.30***
無目的・漠然	0.00	0.02	-0.17	0.21**
適性考慮	0.52***	0.24**	0.19*	-0.07
専門的価値の追求	-0.06	0.02	-0.11	0.02
調整済み R2 乗	0.27***	0.14***	0.12**	0.29***

*p ＜0.05，**p ＜0.01，***p ＜0.001

を行った結果,「他律的動機」,「自己の可能性追求」,「無目的・漠然」,「適性考慮」,「専門的価値の追求」の５つの因子が見出された．大学生を対象とした先行研究で見出された因子と専門学校生を対象とした本研究でのそれを比較すると，いくつかの共通点，相違点が見られる．「無目的・漠然」は大学生を対象とした研究と専門学校生を対象とした本研究でも共通してみられたが,「青春をエンジョイしたいから」「自由な時間が欲しいから」といった享楽志向や,「ものの見方を広めたい」からといった教養志向に関連した項目は，医療系専門学校生を対象とした本研究では，実施アンケートには含まれていたにもかかわらず，因子としては抽出されなかった．国家試験勉強や実習に向けての準備など，学生生活においてとりくむべき課題が多いと予想される専門学校に進学しようと考える段階で，享楽志向や教養志向に関連した項目は進学志望動機として認知されにくいことが考えられる．

次に，理学療法専攻と作業療法専攻学生の進学志望動機の差異について検討を行ったところ,「自己の可能性追求」「無目的・漠然」の項目で，作業療法専攻学生の方が有意に評定が高いという結果が得られた．これは，作業療法を志望する学生は，理学療法を志望するか作業療法を志望するかで進路に悩む傾向にあり，作業療法の分野に自らの可能性を感じると同時に，漠然としたイメージを持っているため，先に述べた２つの項目の差異は，そうした傾向の表れとみてとることができる．受験生の作業療法への理解度を調査した井上らは，入学当初の学生は作業療法への理解が浅く，目的意識が不明確であると指摘しており[15]，そうした指摘とも一致した結果となった．

２．医療系専門学校生における職業的同一性

職業的同一性を問う項目をもとに因子分析を行った結果,「医療職としての被信頼感」,「医療職としての自己投入」,「専門職像の明確さ」,「医療職集団の中での斉一性」の４つの因子が見出された．「医療職集団の中での斉一性」は専門職者を目指すものとして,他者から見られているであろう自分自身が,本来の自分自身と一致しているという感覚であり,「医療職としての自己成長感」は，医療職種になるために必要な自己投入をしており，それによって着実に自己成長を遂げているという感覚であり,「医療職としての被信頼感」は，将来，社会との関係の中で自らの専門職としての力を発揮し認められる，社会の中で役割が与えられることに期待することができるという感覚であり,「専門職像の明確さ」は,自分自身が目指すべきものが明確に意識されている感覚である.自我同一性の概念との対応を考えると,「専門職像の明確さ」,「医療職集団の中での斉一性」は個人,集団の中での斉一性と対応するものであり,「医療職としての自己成長感」,「医療職としての被信頼感」は個人，集団の中での連続性に対応づけることができる．

次に,職業同一性のそれぞれの下位尺度について,専攻の違いによる差がみられるのかについて検討を行ったところ,「自己投入」についてのみ，理学療法専攻群の方が作業療法専攻群よりも得点が低いことが示されたが，他の項目については有意な差は認められなかった．職業的同一性は入学後の学校生活の影響を受けるという指摘があるが,今回の結果が,そうした要因によるものなのか，あるいは，学生の質的な要因によるものなのかについてはさらなる検討が必要である．

３．進学志望動機と職業的同一性との関連

進学志望動機の「他律的動機」「無目的・漠然」が高いほど，すなわち，漠然とした動機しかなく，自分の意志ではなく他人に進められて進学しようとした学生は，職業的同一性の中でも「医療職集団の中での対他的同一性」が低いことが示された．また,進学志望動機の「適性考慮」「自己の可能性追求」が高いほど，すなわち，進学に際し，自分がどれだけその能力を伸ばせる可能性があるか，自分の資質がその具体的な職業技術を身につけることに適しているかといった側面に関連した強い進学動機を有していた学生は，職業的同一性の「専門職像の明確さ」

「医療職としての自己成長感」が高いことが示された．また,「適性考慮」が高いほど,「社会的同一性」が高く,「自己の可能性追求」が高いほど,「対他的同一性」が高いことが示された．一方で，当初の予想に反し，進学志望動機の「専門的価値の追求」は職業的同一性に影響しなかった.「専門的価値の追求」には，肩書きや経済価値の追求が含まれるものであり，専門職養成課程への進学動機としては重要であると考えられるが，それが今回調査対象とした医療系専門学校生においては，職業的同一性の形成に直接影響しない点は興味深い．もともと専門学校に進学する学生には，学歴に象徴されない能力を具体的な職業技術を身につけることで発現しようとする考え方があるため，進学動機のなかでも，入学前に自分がどれだけその能力を伸ばせる可能性があるか，自分の資質がその具体的な職業技術を身につけることに適しているか，といった側面が重視され，その後の職業的同一性の形成に影響を及ぼしたと考えられる．

本研究の課題として，まず，進学志望動機については在学生を対象に調査を行ったため，高校生の時点での正確な進学志望動機を反映していない可能性も考えられ，入学前の高校生を対象とした検討が必要である．本研究では進学志望動機と学生の職業的同一性の間に関係が見られたが，入学後に職業的同一性の変化過程が存在することが指摘されており，入学前後でどのように認識が変容していくのか，同一性の形成過程を詳細に分析する必要があるだろう．また，今回作成した職業的同一性尺度については，専門職を目指す過程にある学生を対象として作成されたものであり，他職種を目指す学生や現職者の職業的同一性について評価する尺度としては不十分であり，職業的同一性の過程を包括的にとらえた検討が必要である．

【文献】

1）白鳥さつき：看護学生の職業社会化に関する研究．山梨医科大学紀要19：25-30，2002.

2）本多陽子，落合幸子：医療系大学生の進路決定プロセス尺度作成の試み．茨城県立医療大学紀要11：45-54，2006.

3）松下由美子，木村　周：看護学生の職業的同一性形成を規定する要因の検討.教育相談研究 31：29-45，1993.

4）西山　修，富田昌平・他：保育者養成校に通う学生のアイデンティティと職業認知の構造．発達心理学研究 18(3)：196-205，2007.

5）波多野梗子，小野寺杜紀：看護学生および看護婦の職業的アイデンティティの変化.日本看護研究学会雑誌 16(4)：21-27，1993.

6）藤井恭子，野々村典子・他：医療系学生における職業的アイデンティティの分析．茨城県立医療大学紀要 7：131-142，2002.

7）渕上克義：進学志望の意思決定過程に関する研究．教育心理学研究 32(1)：59-63，1984.

8）八木晶子，齊藤貴浩・他：高校生の大学進学動機と進学情報の有用度との関連に関する分析．進路指導研究20(1)：1-8，2000.

9）栗山直子,上市秀雄・他：大学進学における進路決定方略を支える多重制約充足と類推．教育心理学研究49：409-416，2001.

10）磯部有希，上村佳世子：大学への進学動機と学校適応感との関連．文京学院大学人間学部研究紀要 9 (1)：pp.51-61，2007.

11）古市祐一：大学生の大学進学動機と価値意識．進路指導研究 14：1-7，1993.

12）佐藤典子：音楽大学への進学理由の認知と進学後の適応について.教育心理学研究49：175-185，2001.

13）長尾由希子：専門学校への進学希望にみるノン・メリトクラティックな進路形成.(東京大学教育学部比較教育社会学コース Benesse 教育研究開発センター 共同研究 都立高校生の生活・行動・意識に関する調査報告書)--(学習に対する意識と進路決定) 研究所報49：109-125，2009.

14）寺島喜代子：看護専門学校生の学習意欲と自尊感情にもたらす入学動機の影響．福井県立大学

看護短期大学部論集５：35-43，1997.
15）井上桂子，古米幸好・他：受験生は作業療法をどのように理解しているか．川崎医療福祉学会誌５(2)：165-172，1995.